

IJBG 日本側会長の佃でございます。本日は沢山の方々にご臨席賜りまして、第 22 回 IJBG ミーティングを盛大に開催できましたことを、大変嬉しく思います。今回の開催に際しては、ローマ市のアレマンノ市長からの多大なお力添えを受け、ザッパ会長のリードの下、IJBG イタリア側事務局の方々にも大変なご尽力を頂きました。

今朝、IJBG の日本側メンバーは、システーナ礼拝堂を訪問することができました。素晴らしいミケランジェロの壁画や建物を観ることができましたが、これもザッパ会長やマレスカさん他皆様のご手配によるものと聞いております。私どもは大変感動致しました。ありがとうございました。また、昨年から活動を開始しております 4 つの分科会のメンバーの皆様にも、日伊間経済交流促進のために、たくさんのお知恵を持ち寄って頂き、昨日のセッションでは大変有益な議論が行われました。この場をお借りして、今回の開催に携わった多くの皆様に、お礼を申し上げたいと思います。

今回は、私が日本側会長に就任して以来、初めての総会でございます。まだまだ私自身は経験不足でございますが、経済界の皆様や、政界官界の皆様にご出席頂いて、色々なお話を伺えることを、大変楽しみにしております。

実は私、今回の IJBG ミーティングがここローマで開催されることが決定致しましてから、ローマについて少しこっそりと勉強してまいりました。ここで少しでもその成果をご披露したいと思います。間違っていなければいいなと思っております。

日本人で、塩野七生さんという、イタリアの勲章「グランデ・ウィッフィチャーレ」を受けられている、著名な歴史小説家がいらっしゃるのですが、この方の代表作は、「ローマ人の物語」という、古代ローマの成立からローマ帝国の分裂までの長い歴史を、15 巻という非常にボリュームの大きい長編小説に纏めたものです。今回私がローマを訪問するまでに、この大変長い小説を、私 1 人ではとても読めませんので、ちょっとズルいことを致しまして、私の大変優秀な若いスタッフの人たちと本を分担しまして、皆が少しずつ読んで、その読んだ内容を発表し、各人は皆自分が全部読んだような顔をする、というプロジェクトを立ち上げ、全部読破して参りました。

おかげで、ローマの大きな歴史の流れを勉強することができました。特に今日この会場に入りますと、私の後ろに、ジュリアス・シーザー、カエサル像がありまして、非常に感激致しました。このカエサルという人は、小説に抛りますと、大変女性に人気があった、慕われたと言われています。なぜ彼がそのようなになったのかも、だいぶ小説を読んで詳しくなりました。何とかあやかりたいものだと思います。

私自身の理解しておりますところでは、カエサルは、特別ハンサムであったというわけではないようですが、高い理想と実行力を伴ったリーダーであり、今回は、その生き方を改めて知る良い機会となりました。

彼は常に先を見て、自らが今何をすべきか考え、それを実際に遂行する勇気を持っていました。その一方で、彼は親友、有名なキケロへの手紙の中で、こう語っています。「何ものにもまして、私が自分自身に課しているのは、自らの考えに忠実に生きることである。だから、他の人々も、そうあって当然だと思っている。」と。

他人に対する寛容さは、ともすれば強いリーダーシップとパラドックス、相反する概念にもなり得ますが、カエサルはこれを見事に両立させていた、むしろ、他人に対する寛容さというものを自分のリーダーシップの糧としていたということに、私は非常に強く感銘を覚えたものでございます。くしくも、彼の像が見守る、この荘厳な会場で、私は本日、IJBG 日本側会長として初めて皆様にお目にかかることになりました。皆様の前でこのようなお話ができ、大変感激しております。

このミーティングが、本日お集まりいただいた皆様とともに、日本とイタリアの将来について、あるべき姿を議論し、これを実行に移すために自らが何をすべきか、じっくり考える機会になることを切に願っております。

ご清聴ありがとうございました。